

【質問項目】

1. 農地集積について
2. 獣医師確保について
3. 焼酎と食文化の輸出について

1. 農地集積について

■質問（しもづる）

私から三点ほどお伺いしたいと思います。

一点目は、この当初予算等説明書の六十一ページにあります農地集積推進事業についてお伺いしたいと思います。

やはり今後、耕作放棄地の解消並びに稼げる農業へ向けた意欲ある経営体への農地集積を考えたときに、やはりこの農地集積というのは非常に重要だろうなと思っているところなんです、こちらの財源が将来的に確保できるのかどうかという観点から伺いたいなと思っています。

こちらの農地集積推進事業、運営費に約二億八千万円、そして協力費にも二億八千万円、五億六千万円とか七千万円とかのオーダーで恐らく推移していくんでしょうけれども、じゃ、その財源を見たときに、この特定財源の四億一千万円というのが大きなウエートを占めているわけですね。なので、ここがちゃんと確保できていくのかというところを見ていきたいなと思っています。

そこで、具体的には、基金を造成して取り崩していくということをやっているんだと思うんですけども、その現状の積み立て状況並びに今後の見通しについてお示してください。

□答弁（農村振興課長）

農地中間管理機構の関係の基金の造成の状況でございますけれども、平成二十七年四月一日時点の来年度、二十七年度の当初を使わない時点での今の造成額といたしましては、三十二億八千六百万円ほどの積み立てがございます。二十七年度の当初予算を除いた額、残りでございますが、それについては、二十八億六千九百万円ほどが残る予定ということになっております。

■質問（しもづる）

こちらは、国の動向、将来的な見通しというのは現在どういうふうになっているんですかね。というのが、今お示しいただいたとおり、来年度スタート時点で三十二億円の残、来年度当初予算で見ますと、ここから四億円ほど取り崩して使っていく、とすると、単純で割ると入ってこなければ七年で枯渇するという状況なので、今後の見通しが今わかっていれば教えてください。

□答弁（農村振興課長）

今後の見通しにつきましては、まだ具体的なことはわかっていないわけですが、国のほうでも

この農地中間管理事業の制度自体、今後、農家の高齢化とか減少が急速に進む中で、どうしても農地の集積、担い手の集積をやらないといけないというようなことで、国のほうでも一丁目一番地といいますか、非常に大事な事業ということで位置づけをされておりますので、今後ともちゃんと予算も確保されてくるんじゃないかなと思っておりますし、また、本県におきましても同じように高齢化が進んでいく中で、やはり農業生産額をちゃんと維持していく、また、担い手に集積することで農家の所得を上げていくということで非常に大切な制度でもございますので、これまでも県の開促協等を通じて、予算をちゃんと確保してくださいということでも要望をしておりますし、今後ともちゃんと予算の確保をしていただくように要請もしてまいりたいというふうに考えております。

■質問（しもづる）

ありがとうございます。

ただいま、本事業の背景並びに本県における重要性というのをお示しいただいたわけですが、やはり七、八年で終わる事業ではないわけですので、ぜひ、今、開促協のお話もありましたけれども、引き続き、予算の確保に全力で取り組んでいただきたいなというふうに思います。

2. 獣医師確保について

■質問（しもづる）

続いて、今度は獣医師確保のところについてお伺いしたいと思います。同じ資料の九十六ページのところです。

こちらは、県職員獣医師を確保するための勧誘等々に四千万円かけてやっているということなんですが、恐らくこの事業があるということは、ほっといたら県職員の獣医師って確保できないというそういう背景があるのかなというふうに思っているところなんです。なので、県職員の獣医師の概況並びに直近の募集と応募の状況、そして、事業として具体的にどういうことをやっているのかということをお示しくください。

□答弁（家畜防疫対策監）

県職員の獣医師の確保の御質問がございました。

まず、県職員の獣医師の数の状況と申しますか、農政部におきましては百六名の獣医師がおりまして、内訳といたしまして、家畜保健衛生所に八十三名のほか、本庁、それから畜産試験場等に二十三名を配置しているところでございます。

あと獣医師職員の募集の状況でございますが、本年度は十三名の募集をかけておりまして、六月と十二月に二回の採用試験を実施しております。その結果、二十七名の受験がございまして、二十三名が合格したところでございますが、その後、本県への就職意向調査を実施しましたところ、十七名の学生が本県への採用手続を今済ませている状況でございます。

なお、そのうち十三名の学生が新卒者、今度卒業される学生さんでございまして、獣医師国家試験の合格発表の状況を今、注視しているところでございまして、あとまたこの獣医師確保事業の内容でござ

います。一つは、国内の獣医系の大学が数多くございますが、その大学を訪問いたしまして、学生に対しまして、本県の畜産の概要、魅力、それから県獣医師の業務の内容を説明させていただいております。それから、あわせて本県及び県内の公的団体に勤務をしようとする獣医系大学の学生に対しまして、就学資金を貸与いたしております。これにつきましては、国公立大学につきましては月十万円、それから私立系の大学につきましては月十二万円の貸与を計画しております、最高六年間という貸与の内容になっております。一年当たりの新規の貸与は五人以内ということで計画をしております。

あと一つは、本県特に独自の取り組みとしまして、職員立案型の研修としまして、まずは鹿児島県に採用した後のスキルアップをしていただくということで、職員みずからが計画をいたします職員立案型の研修というものを準備いたしております、入ってきてからもこういうことができるんだよというような勧誘に、一つのツールとして準備をしておるところでございます、一年当たり国外研修を一人、それから国内研修を二人見込んでおるところでございます。

■質問（しもづる）

ありがとうございます。

農業産出額の中でも過半を畜産が占める畜産県における本県において、やはり県職員の獣医師の重要性というのは非常に高いというふうに認識しております。その中で、直近年度の応募状況、募集状況をお示しいただいたわけですが、非常に大変な中でやられているんだなというのも今の数字でわかるところですね。二十七人受験して二十三人合格を出したけれども、恐らく六人が辞退をして十七名が手続をやっていると、非常に大変な中で集めていらっしゃるんだなということは理解いたしました。

その中でお伺いしたいのが、今、貸与制度を計画されているということなんですが、こちらは、もちろん通常は返還義務があるわけなんでしょうけれども、よく人のお医者さんである自治医大方式みたいなものなのか、普通の貸与方式なのか、そこを教えてください。

□答弁（家畜防疫対策監）

これにつきましては、貸与をいたしまして、その後、鹿児島県の獣医師として入庁していただきました場合、貸与期間の一・五倍以上連続して勤務していただいた場合、全額返還免除をいたすものでございます。

それから、あと県ではございませんが、県内の公的団体に同じく貸与期間の一・五倍以上連続勤務していただいた方につきましては、半額の免除というふうな取り扱いをいたしております。

■質問（しもづる）

ありがとうございます。

六年貸与を受けて九年勤務すれば免除されるという、お医者さんのほうでやっている自治医大方式と同じ仕組みであることを確認いたしました。これは非常に有効な方策であると思いますので、ぜひ今後とも推移を見守っていききたいなというふうに思っております。

3. 焼酎と食文化の輸出について

■質問（しもづる）

最後に一点、農政課に、かごっまの味の三百万円の事業についてお伺いしたいなと思っております。

本日お伺いしたいのは、これは今後、輸出、商工サイドとの連携というのはどういうふうにお考えなのかというふうに思っています。といいますのも、商工サイドでは、焼酎の輸出というのに芋、黒糖を含めて取り組んでいらっしゃるわけなんですけれども、私、常々、やはり焼酎単独じゃなくて、当然この鹿児島でずっと長い間、だいやめの文化等々親しまれてきたわけですので、鹿児島の味とセットで売り出せないのかなというふうに考えてまいりました。

そこで、今回、伝統的なかごっまの味を保存、発掘していくというすばらしい取り組みだと思いますが、そこから発掘、保存したものを、伝統を例えば焼酎とセットで海外に売り出していく、国内に売り出していく、そういうビジョンというのをどのようにお持ちなのかということを教えてください。

□答弁（農政課長）

委員から御質問がありました「かごっまの味」制定普及事業ですけれども、来年度におきましてはまさに、かごっまの味ということで、次世代へ継承したい本県の郷土料理等を県民に選んでいただいているというところで、その過程で県民の皆様の本県の食についてもっと意識を醸成していこうと、県民の皆様の間で意識を醸成していこうということがまず来年度の事業でありますけれども、当然その効果といたしまして、食育地産地消の推進はもとよりですけれども、鹿児島の農林水産物の普及促進、あるいは観光客へのPRというものも当然視野に入ってくるものと思っております、さらに、その次の年度以降の取り組みといたしましては、そういった観光とも連携をした、かごっまの味のPRというものを観光サイドとも連携して進めていきたいというふうに考えております。

■質問（しもづる）

ありがとうございます。

ぜひ、単に次世代に伝えるだけではなくて、今、御説明いただいたように、観光サイドとの連携、そして国外、県外に物を売っていくサイドとの連携というのを今後とも進めていただければなというふうに期待しております。

以上です。